令和 ４ 年度　さいたま市立与野南中学校　学校だより
み　な　み　か　ぜ

南　風

第　１　１　号
令和 ４ 年 １２ 月 ２３ 日発行
http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp

＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒　心豊かな生徒　心身共に健康な生徒

《 ２学期終業、そして令和４年末にあたって 》　年度としては３か月を残すとはいえ、保護者、そして地域の方々からのご理解とご協力を賜り、令和４年を締めくくることができたことをご報告します。ありがとうございました。還暦を迎えての寅の年、私も大いに張り切って迎えたつもりでした。本日を迎えることができたのは、この間の本校教職員の奮励・努力があったことも確かで校長として感謝の意を表します。

新年、それぞれの学年に応じて目標を立て直し、４月に向けた準備を進めてください。本校には様々な場面で活躍できそうな素地が備わっています。全く思いもしなかったような面白い学校に変化させることもできそうです。すべての人たちが一緒に考え、創造していく学校になることを希望します。

穏やかな年の瀬、明るい新年、気持ちを高めながらこの冬休み中に迎えられることを祈っています。

教員の醍醐味

校長　　吉　原　誠　士

「どうしてずっと先生を続けることができたの？」と尋ねられました。現在の日本では「一つの職業にこだわり続ける必要はない」との意見も唱えられるようになり、転職によるキャリアアップや起業も盛んです。そのような社会に育つ若者の中には約４０年間も同じ職種を継続するのが不思議に見える人もいるようです。教員を目指している質問者にも、ふと同じ疑問が湧いたのでした。

振り返ってみると、担任するクラスが危うい状態になり、出勤するのも苦痛と思ったことが３回あります。また、教職には営業職のような「ノルマ」という発想は多くはないのですが、それでも日常的に様々な課題や締め切りに悩むことは今も昔も変わらず存在し、体調に多少の影響が出ることはあります。さらに、大人であっても生徒であっても対象が人である以上は必ず相性があり、ストレスが生じることは当然です。私は楽観的ではなく、むしろこういう困難に敏感に反応する方なのですが、「**大変じゃない仕事なんてある訳がない**」との考えでどうにか乗り越えてきたのは確かだと思います。

矛盾しているように見えるかもしれませんが、実はこのような苦悩そのものが在職し続けた理由になるのかもしれません。緊急を要する事態は千差万別ですし、人そのものは常に変化しています。その時々の対応はその違いや変化に合わさざるを得ないのです。授業で指導する中身も時代と共に更新されています。事態を見極めて思考と判断を続けることが求められ、それがベテランへの道につながります。「休まず勉強と労働にあたれ」を意味した恩師の「教師はマゾヒストにならなければ務まらない」との言い分には与(くみ)しませんが、「**学ばざる者、教えるべからず**」は座右の銘となりました。意識して勉強したことだけでなく、毎日の生活の中で目にするもの耳にするもの全てを教室で活かすことができるのは魅力です。「**何事に対しても興味津々**」たることは教師として要求される資質なのでしょう。

「管理職が陰気な顔をしていたり、疲れた表情を見せ続けたりしていたら職場の皆がやる気をなくすだろう」とは校長としてのあり方です。これを職員室で語るなら「教室に行く学級担任や教科担当が暗い顔をせず、常に生き生きしていれば子どもたちも元気になるだろう」となります。経験的にはこのようなあり方が自然と周りに人を集めることとなり、良好･良質なコミュニケーションが加速されます。そして自分も含めた周囲の人々を元気づけ、思わぬ力を発揮する源になったりもします。校長職にある私はこれまで以上に元気に、そして粘り続く“一所懸命”を続けます。・・・冒頭の問いへの回答を付け加えましょう。私の傍らには励ましや支持をくださった方々だけでなく、時として厳しい言葉で指導してくださった人生の先輩が存在しました。「**諫言(かんげん)耳に痛し**」。これからもよろしくお願いします。